

国際緊急援助

一つでも多くの命を救うため

● JICAの災害緊急援助体制

JICAは、海外で大規模な災害が発生した場合に、被災国政府または国際機関からの要請に基づき、緊急援助を実施しています。支援の形態には、国際緊急援助隊 (Japan Disaster Relief Team: JDR) の派遣と、緊急援助物資供与の2つがあります。

国際緊急援助隊には、救助チーム、医療チーム、感染症対策チーム、専門家チーム、自衛隊部隊の5形態があります。国際緊急援助隊は被災国の要請に基づき、わが国の外務大臣が派遣を決定し、JICAが派遣の実務を担います。他方、緊急援助物資供与は、JICAが実施する

活動です。

● 国際緊急援助隊事務局の業務

1. 国際緊急援助隊派遣

海外の被災地に対する緊急援助の実務を担うのが、JICAの国際緊急援助隊(JDR)事務局です。JDR事務局は、国際緊急援助隊の派遣が決定されると、隊員の選考、航空機の手配、携行資機材の選定など派遣の準備を行うほか、隊員が現地で円滑に活動できるよう、JDR事務局員等を業務調整員として派遣します。

代表的なチーム派遣には、救助チーム、医療チーム、



2016年度緊急援助実績 (2016年4月～2017年3月 計16件)

No	支援時期	被災国・地域	災害区分	援助区分	派遣人数・供与物資
1	2016年 4月	パラオ	干ばつ	物資供与	ポリタンク、浄水器、簡易水槽
2	4月	エクアドル	地震	物資供与	テント、毛布、スリーピングパッド
3	5月	スリランカ	豪雨	物資供与	毛布、プラスチックシート、スリーピングパッド、ポリタンク、浄水器、簡易水槽、発電機、浄水剤
4	7～8月	コンゴ民主共和国	黄熱	感染症対策チーム	第1陣 11名、第2陣 6名
5	8月	マケドニア旧ユーゴスラビア共和国	洪水	物資供与	水中ポンプ、排泥用ポンプ、排水用ポンプ、発電機、削岩機、電気のごきり、発電機付ゴムボート
6	8月	ミャンマー	洪水	物資供与	毛布、プラスチックシート、ポリタンク
7	9月	タンザニア	地震	物資供与	テント、毛布、プラスチックシート、スリーピングパッド、ポリタンク
8	10月	ハイチ	ハリケーン	物資供与	テント、毛布、プラスチックシート、スリーピングパッド、ポリタンク、浄水器、簡易水槽
9	10月	キューバ	ハリケーン	物資供与	テント、毛布、ポリタンク、浄水器、コードリール
10	11月	ニュージーランド	地震	自衛隊派遣	51名
11	12月	インドネシア	地震	物資供与	テント
12	2017年 1月	チリ	森林火災	物資供与	消火剤
13	3月	モザンビーク	サイクロン	物資供与	プラスチックシート、ポリタンク
14	3月	ジンバブエ	洪水、サイクロン	物資供与	テント、プラスチックシート、ポリタンク、浄水器
15	3月	マダガスカル	サイクロン	物資供与	テント、プラスチックシート
16	3月	ペルー	洪水	物資供与	テント、毛布、プラスチックシート、スリーピングパッド、ポリタンク、浄水器

感染症対策チームがあります。

被災者の捜索・救助活動を実施する救助チームは、国際的な基準に基づいて世界中の救助チームの能力を評価する国際搜索救助諮問グループ(INSARAG)の外部評価において、最も高い能力を有する「重(ヘビー)」級チームとして認定されています。

医療チームは、被災国での医療支援を実施します。2016年10月に世界保健機関(WHO)から、緊急医療チーム(Emergency Medical Team: EMT)としての国際認証を取得しました【→ P.5を参照ください】。また2017年2月には、医療チームが主導した災害医療情報の標準化手法[Minimum Data Set: MDS]が国際標準としてWHOに採択されました。MDSは、被災地で活動するEMTが患者のカルテから抽出し、日報として被災国保健省へ報告すべき46の必須項目で、年齢層、性別、妊娠の有無、外傷・疾病の種類、処置、衛生状態などから構成されています。これらの項目と定義を国際標準化することにより、被災国保健省はすべての活動中EMTの日報データを合算して、被災地全体の最新状況を把握・分析することが可能となります。今後、JDR事務局はMDSの普及・拡充に貢献していきます。

感染症対策チームは、国際的な感染症の流行に対応するため、2015年10月に新設され、隊員募集や研修を実施してきました。2016年7月には、コンゴ民主共和国における黄熱の流行に対し、初の派遣を行いました【→ 右事例を参照ください】。

2. 緊急援助物資供与

緊急援助物資を被災地へ迅速かつ確実に供与するために、JDR事務局は事前に物資を調達し、備蓄しています。世界5カ所に備蓄倉庫を配置しているほか、国連人道支援物資備蓄庫(UNHRD)も活用しています。2016年度は合計14回の物資供与を行い、キューバ、ハイチを襲ったハリケーンやミャンマーにおける洪水など、さまざまな災害に対して支援を実施しました。

3. 平時からの応急対応への備え

いざ大規模災害が発生した際に迅速かつ的確な支援を実施するためには、平時の備えが重要です。チーム派遣に関しては年間を通じて種々の研修・訓練を実施し、隊員候補者の能力強化を図っています。

国際連携に関しては国連人道問題調整事務所(UNOCHA)、WHOをはじめとした関係国際機関等との連携強化を図っています。また、JICAの社会基盤・平和構築部が

主導するASEAN災害医療連携強化(ARCH)プロジェクトを通じて、ASEAN地域における災害医療の連携体制の構築と能力強化に貢献しています。

近年、世界で発生する自然災害は規模、件数ともに拡大傾向にあり、災害多発国として経験の多い日本の国際緊急援助は重要度を増しています。JDR事務局では応急対応から復旧・復興に向けたシームレスな支援の展開に向け、他部門と連携を強化しています。

事例

コンゴ民主共和国
黄熱の流行に対する国際緊急援助隊
感染症対策チームの派遣



感染症対策チームの初陣 確定診断等に貢献

2016年7月20日、JICAはコンゴ民主共和国の黄熱の流行対策を支援するため、2015年10月に新設した国際緊急援助隊・感染症対策チームを初めて派遣しました。

チームは保健省幹部に対する助言、黄熱の検査のための技術支援、黄熱ワクチン接種キャンペーンへの支援を行いました。特に検査については、試薬不足で確定診断が止まっていた国立生物医学研究所に対し、試薬を提供し、未検査だった400以上の検体すべての確定診断を7月中に終わることができました。

こうした日本の迅速な支援は、コンゴ民主共和国政府、WHOおよびAFRO (WHOアフリカ地域事務局)から高く評価されました。さらに今回の初派遣を通じて、チーム体制の充実に役立つ貴重な経験・教訓を得ることができ、今後の感染症対策チームの発展にも役立つものとなりました。

JICAはこれまで同国の保健分野に対し、複数のプロジェクトや各種支援を実施してきており、現在も保健人材の育成や公衆衛生の確立などを支援しています。それが今回、平時の協力と感染症流行時の緊急支援を連携させた「シームレスな(切れ目のない)支援」の展開につながりました。今後も緊急支援とプロジェクトを組み合わせ、各国のニーズに応じたシームレスな支援を目指します。



ワクチンキャンペーンの視察で接種方法を確認